

# 共生地域づくりプロジェクト通信

多賀城市八幡地区

「共生地域プロジェクト通信第4号—特集多賀城のWell-beingのまちづくり—」を発売します。

令和6年度から新たにスタートした宮城県多賀城市が進める「Well-beingをコンセプトにした幸せを感じる共生地域づくり」の取り組みを紹介し、今年度は、多世代が協働して地域の活性化を実現している八幡地区、新田三区、南宮地区の実践に注目し、その様子と特徴を学生が各地区の地域活動・行事の運営に参加しながら、関係者へのインタビューを試みながらまとめました。「楽しい居場所」「役割・活躍の場」「地域・人のつながり」「多世代の協働」「健康」がキーワードとして浮かび上がってきました。

## \\ 住民同士の繋がりを大切に、ともに助け合える八幡地区 //

### 住民同士をつなぐおしゃべりサロンの役割とは

「おしゃべりサロン沖」に参加しました！

令和6年9月5日に多賀城市の八幡沖公民館で行われた「おしゃべりサロン沖」に参加しました。同サロンは、東日本大震災の被災者支援としてスタートし、現在は町内会長・沖区振興会会長の東海林順也さんと八幡沖区民生委員・児童委員の阿部礼子さんが中心となり運営されています。令和6年12月にサロンは記念すべき第100回を迎えました。

9月5日のサロンでは20名が集まり、東海林さんや阿部さんをはじめ、歴代の町内会長など多くの方々の協力により、サロンの継続に繋がったことを強く実感しました。サロンは、和気あいあいと歌を歌い、「多賀モリ体操」などをしたり、あっという間に時間が過ぎ、次回のサロンを心待ちにしている様子でした。

### 住民をつなぐ八幡地区の居場所

今回のサロンの内容は、プロ並みの歌唱力を持つ「アネモネさん」をお招きし、親しみやすい曲や懐かしの歌謡曲を歌って楽しみました。様々な運営上の工夫が盛り込まれている点が印象的でした。例えば、歌詞カードが用意されており私たち学生など初めての参加者も一緒に楽しむことができると感じました。「涙そうそう（なだそうそう）」の場面では、皆さんのこれまでの人生で出会ってきた人との出会いや別れ、様々な経験を思い出しながら聞いており皆さん感動していました。

「多賀城元気モリモリ体操」略して「多賀モリ体操」も印象に残りました。身体全体を動かして踊る「多賀モリ体操」は、ご高齢の方から若い世代まで楽しく踊れる体操です。工夫されたプログラムが盛りだくさんのサロンは、毎回、楽しみにしてくれる参加者があり、参加者も状況に応じてお茶入れなどのサロン運営に関わるなど、皆さんの協力によりサロンが成り立っていることを実感しました。同じ地区に住みながらも普段は顔を合わせることがない方も、サロンが大きな役割を果たしていると感じる時間となりました。

地域と人を繋ぎ、絆を作る場所、それが八幡地区の「おしゃべりサロン沖」でした。



祝100回



沖区振興会 会長 東海林さん



アネモネさんの2人



ストレッチ体操



東北福祉大学 大学生の取材 (その1)



東北福祉大学 大学生の取材 (その2)

### 「おしゃべりサロン沖」の中心となる運営者であるお二人にインタビュー！

「おしゃべりサロン沖」を運営している町内会長・沖区振興会会長 東海林順也さんと八幡沖区民生委員・児童委員 阿部礼子さんへインタビューをさせていただきました。

#### 東海林順也さん

Q. 「おしゃべりサロン沖」のやりがいは何ですか。

A. 私たちは、参加してくれた方の言葉がおしゃべりサロン沖を実施するやりがいとなっています。「次はいつなの？」や「楽しかった！」などの言葉を聞くとまた開催しようと思えます。サロンは、様々な団体の協力により出前講座や教室を開くことができ、とても感謝しております。しかし、「おしゃべりサロン沖」には課題もあります。それは、多くの方がサロンは高齢者の集まりと思っており、新規に参加する方がいないことです。今後は、このイメージを払拭し新規参加者を増やすことを目指していきたいです。

#### 阿部礼子さん

Q. 「おしゃべりサロン沖」が始まったきっかけはなんですか。

A. 「始めたきっかけは、多賀城市社会福祉協議会の復興支えあいセンターからの声掛けでした。東日本大震災により住民の方々の気持ちが落ち込んでいたため、人が集まって楽しくお話をするサロンをしてみませんかとお声がけをいただき始めようと思いました。私たち民生委員・児童委員の力だけでは、町内の方々を集めることが

できないと思い、町内会長さん方への協力をお願いし現在の形になりました。これまで続けてきたなかで出前講座や教室を開いてくださる様々な団体の方々と参加者の皆様の協力があり、100回を迎えることができました。」

Q. 「おしゃべりサロン沖」のやりがいは何ですか。

A. 皆様が「おしゃべりサロン沖」に来てくれることがとても励みになっています。コロナウイルスが流行している期間には5、6名で開催することもありました。また、コロナ禍で開催できなかった2年間で亡くなられた方、施設に入所された方、デイサービスを受け始めた方、様々な理由で参加できなくなる方が増えてきました。だからこそ、参加された方が楽しんでくれることが私たちのやりがいなのです。また、私は現在「多賀モリ会」に所属していて、令和6年度に多賀城市の保育園で月2回「多賀モリ体操」を教えていました。子どもたちがバッチリ踊れるようになり、運動会の準備運動で子どもと親御さんが一緒に踊っていただきました。世代交流の役割として、これからは、各小中学校で踊ってもらい、多賀城市の子どもからお年寄りまで踊れるようにしたいという思いがあります。実現できるようこれからも励んでまいります。



東海林会長・阿部民生委員・児童委員

### 多世代で考える、地域と防災のこれから ～多賀城高校×八幡地区×東北福祉大学～

「高齢の方や障がいを持っているため参加できない人の避難訓練はどうするか」

令和6年9月21日に開催された「八幡地区5町内会津波伝承まち歩き 地域と防災話し合い」について紹介します。

今回の話し合いでは、「地域や防災について、思うこと、感じること」について、町内会長、民生委員・児童委員、災害科学科の多賀城高校生、地域づくりを学ぶ東北福祉大学生が意見交換を行いました。民生委員・児童委員から「アパートでひとり暮らしをしている高齢者がいる。一人での避難行動ができないため、そのアパートの大家さんが地震などの災害が起こると自分の家と一緒に避難させている。」という事例の紹介がありました。

「本来であれば民生委員・児童委員が対応するべきだが、現実的に人手不足や件数の多さから実現することは非常に難しい。そのため、近隣住民や町内会などの日常的でさりげない見守りや地域の繋がりをつくる必要がある、災害時は近隣の協力が不可欠である」という課題が示されました。

#### 「高校生・大学生からの意見や感じていること」

例えば、「避難行動要支援者の方へ災害時に必要な支援のヒアリングを行い、町内会

に周知するリスト作成や、避難経路にある社会的障壁などをまとめた防災マップを作成することができる。それによって、住民全体で災害時の助け合いが可能になるのではないか」という意見が出ました。また、「子ども達に対して、いろいろと協力をお願いする事を遠慮している雰囲気がある側にあるのではないかと。子ども達は、もっと頼ってほしいと思っている」という力強いメッセージが寄せられました。

#### 「防災活動が地域づくりにつながる」

～今後の共生の地域づくりに向けた主なコメント～

##### (地域福祉から地域防災へ)

町内会独自の取り組みとして高齢者世帯への聞き取りシートがあり、服用薬などの情報を町内会役員で共有。日頃の取り組みが災害時対応につながる。

(八幡上一町内会 会長 郷古正夫氏)

##### (津波伝承活動から地域づくりへ)

被災の教訓を伝承し、災害から我が身を守る行動を地域全体で考えている。私の町内会は、若い世代への伝承の一助として、多賀城高校と一緒に防災をキーワードに話し合うなど連携を継続している。

(八幡上二町内会 会長 瀧澤 正之氏、民生委員・児童委員 松山 功氏)

### (防災から地域づくりへ)

東日本大震災の津波を経験しており、当時の生々しい記憶が蘇った。実際に現地に行って見ることが大事で、町内会長、民生委員・児童委員、高校生、大学生といった多世代で防災を話し合うことが地域づくりにつながる。気に掛けている方の見守りについて、監視にならないよういろいろと気を付けており、声掛けひとつで、関係性も良くなる。

(八幡下一町内会 会長 桂嶋 恵一氏、民生委員・児童委員 瀧口 裕子氏)

防災訓練の打ち合わせにおいて、八幡地区の避難をテーマに、避難場所や避難経路などの細かい事も含め、行政の方も含めた話し合いを進めていきたい。

(八幡下二町内会 会長 滝口 一男氏、民生委員・児童委員 岡田 ひさ子氏)

### (地域の防災学習から地域防災力の向上へ)

震災の経験を一人ひとりが次の災害に活かすこと、八幡地区が連携し、対応するこ

とを皆さんと一緒に考え行動したい。災害関係においても、災害系の養成講座を受講した方へオレンジリングのようなものを渡すことで、災害に関する意識が変わるきっかけにもなるのではないかと。この仕組みがあれば、地域の防災力もアップする。

(沖区振興会会長 東海林順也氏、民生委員・児童委員 阿部 礼子氏及び 富田ふみ子氏)

### (防災を通じた若い世代の参加機会の拡大へ)

若い世代の地域活動への参加を促すには、大学生や高校生は、いろいろな地区から通学しており、地域になじみがないため、地区に住んでいる中学生に参加を促すことが将来的に有効。子ども達に対して、いろいろと協力をお願いする事を遠慮している雰囲気があるのではないかと。子ども達は、もっと頼ってほしいと思っている。

(多賀城高校中村 旬氏 (2年生)、高橋 芽久氏 (2年生)、森合 ことり氏 (2年生))



八幡上二町内会 会長 瀧澤正之氏



八幡沖区 富田ふみ子民生委員・児童委員



八幡上一町内会 会長 郷古正夫氏



八幡下一町内会 会長 桂嶋 恵一氏



参加した多賀城高校の生徒



八幡下二町内会 会長 滝口 一男氏



参加者全員での記念写真です

### 津波伝承まち歩きから学ぶ、後世に伝える重要性～東北福祉大学のフィールドワーク～

私たち大学生も実際に、「津波伝承まち歩き」に参加しました。当初予定していた9月21日の多賀城高校の津波伝承まち歩きが雨天中止となり、後日11月22日に多賀城市社会福祉協議会菊地さんの説明のもと、津波伝承まち歩きに参加しました。

多賀城イオンからスタートし、1階のエレベーター前にある東日本大震災時の津波の高さが分かる標示の見学、屋上に上り、当時の写真と現在の景色を見比べ、被災当時の事実と教訓を語り継ぐ人が必要であることを強く感じました。



イオン多賀城店のエレベーター前にある津波高の標示を見ている学生たち



イオン多賀城店の屋上から当時の被災状況について説明を受ける学生たち



歩道橋の裏側にある津波到達位置を示す標識と津波の跡を見る学生たち



多賀城高校さんが設置した津波到達位置を示す標識を見ている学生たち

### 森先生よりごあいさつ

#### 【八幡地区】

八幡沖区のサロンに伺った際に、本サロンが震災を契機に立ち上がった経緯についてお話を聞きました。数えると12月で第100回を迎えるそうです。参加してみると「アネモネ」さんの音楽プログラムや民生委員・児童委員の阿部さんの体操プログラムなど、そこに参加すれば自然と元気が出てくる内容が考えられており、100回の継続を通し作り上げてきたサロンの底力を実感するものでした。また、沖区以外の皆様の参加もあることは大きな特徴です。参加メンバーの高齢化・固定化によりサロン活動をどう継続していくか工夫が求められる中で、地区ごとに組織されるサロン活動を基本としつつも、地区を越えて広く交流するサロンのあり方や多世代がサロンに価値を発見し、地域づくりの起点にしていくような活動のあり方を示す好事例となっています。全国各地のサロン活動で企画や運営継続の難しさの声が聞かれる中、広く開かれたサロン活動をここまで展開してきた関係者の皆様のご努力に深く敬意を表します。

#### 【八幡×多賀城高校災害科学科】

雨天のため予定していた「津波伝承まち歩き」は実施せず、町内会関係者(町内会長及び民生委員・児童委員)と多賀城高校の生徒、東北福祉大学の学生によるディスカッションを開催しました。いま多賀城市で進める「共生の地域づくり」が地域防災につながるという視点が関係者によって確認された点が大きな成果でした。特に、地域づくり・地域防災を日常的な取組の中で実践する町内会長、民生委員・児童委員と多賀城高校生と大学生という多世代が問題意識を共有できたことが、今後の同地区での地域づくり・地域防災の実践づくりを一步前進させる契機になることを期待したいと思います。3.11の経験が色濃く残る八幡地区だからこそ、災害時を想定し、一人ひとりの不安を安心に結びつける日常の関係性を築く必要があります。それは、具体的に命を守ることができる仕組みづくりの延長線上に、地域づくりを位置付けていく意味であることを改めて確認することができました。「津波伝承まち歩き」に向けて資料準備をはじめ貴重な知見をご提供くださった多賀城高校の生徒の皆さん、お忙しい公務の中、調整の労をとっていただいた佐藤 寿正先生を始めとする多賀城高校の先生方に心より御礼申し上げます。

#### 青木 琉人 (ゼミ2年生)

八幡地区での活動を通して、「津波」の経験からご年配の方から若い世代まで防災意識の高さを感じました。津波伝承まち歩きの話し合いでは、経験者の皆様から実際にお話を聞ける貴重な機会となりました。また、八幡地区で活動する皆様の原動力になっている「未来の地域のため、子どもたちのため」という強い想いに感銘を受けました。皆様が大切にしている地域に繋がりをくれる場や機会を作る力になればと思います。一緒に活動させていただきありがとうございました。

#### 藤原 梨緒 (ゼミ3年生)

今回、八幡地区での活動を通して、多世代間での交流を大切にしており、特に高校生など若者の意見を尊重している町内会長や民生委員・児童委員の方々の話を伺い、地域交流のあるべき姿を学ぶ機会となりました。また、9月21日の「地域と防災話し合い」では地域での連携、繋がりが重要であると再認識しました。持続可能な地域づくりを行うためには、防災は避けては通れない地域課題と捉え、地域全体で考えていく必要があることを学ぶ機会となりました。八幡地区の住民同士のつながりの深さを強く実感しました。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

### 編集後記



Instagram



YouTube